

3 年 団

学年主任： 藤井 勝幸

(1) 今年度の目標

- ① 3年生としての自覚を持ち、規律ある高校生活を送る。
 - ・ 自主、自律的な生活を実践し、協調的態度を育成する。
- ② 進路目標を高く掲げ、実現する。
 - ・ 進路を明確にし、目標実現に向けて効果的な学習をする。
- ③ 豊かな人間性を涵養する。
 - ・ 社会生活における役割や自己責任を自覚し、深く豊かな人間性を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 3年生であることを自覚し、自律的な生活が送れるよう支援する。
 - ・ 言葉遣いや服装・態度、時間や約束の厳守など基本的な生活態度が、大人としての行動（社会に出てのマナー）であるか、自分さえ良ければよいという言動をとっていないか、機会あるごとに反省を促し、常に責任ある言動がとれるように指導する。
- ② 主体的に進路目標が実現できることを支援する。
 - ・ 総体後の進路HRなどを充実させ、部活動引退後の気持ちの切り替えと受験態勢の構築が速やかに行えるよう面談等を通じて指導する。
 - ・ 塾頼りの受け身の学習ではなく、主体的な学習、特に家庭学習を充実させるよう指導する。
 - ・ 「進路説明会」や懇談会を充実させることにより、生徒と保護者が共通理解の下で進路を決定できるようにする。
 - ・ 「進路だより」を効果的に発行する。また、受験情報誌やインターネットなどを利用して、進路に関する情報を充実させる。
 - ・ 保護者を含む三者懇談や担任との面接などを通して、進路を明確にさせる。
- ③ 好ましい人間関係を築かせて、社会生活を営む力の向上を支援する。
 - ・ 「受験」という波に飲み込まれることなく、社会の動きを知り、周囲の人々の気持ちに配慮できるような広い視野を持たせる。
 - ・ 運動会や津島杯（校内球技大会）などの学校行事に積極的に参加させることによって、好ましい人間関係を築かせ、協力・強調の精神を養う。
 - ・ 高大連携や国際理解講演などを通してさまざまな刺激を与え、社会に目を向けた活動が出来るようにする。

(3) 成 果

- ・ 新校舎での生活が始まり、生活態度にも落ち着きが見られるようになった。数名の女子で服装（スカート丈）が気になる生徒もいたが、全体としてはよく整えられていた。
- ・ 総体後すぐに学年集会を実施し、進路指導部や各教科（理科・社会）からの話によって、これからの目標設定や気持ちの切り替え、学習の仕方などが再確認できたことは、生徒にとって効果的だった。
- ・ 5月の進路説明会（保護者の出席率75%）、また3度の進路ホームルーム等を通して、各自の進路について情報を収集し、主体的に考えて進路目標を定めることができた。
- ・ 担任や副担任その他教科担当の先生方が、年2回（3年）の面接週間だけでなく、校内、校外模擬試験の成績返却時等を利用して、効果的に生徒と面接を実施し、受験勉強や進路決定がスムーズに行えるよう支援することができた。面接や小論文など個々の受験指導にも担任だけでなく、多くの先生方が十分に時間をかけて、生徒の進路実現を支援した。

- ・1学期末、2学期末の保護者懇談会、センター試験後の懇談会、日数や時間割等で配慮して頂き、効果的に実施できた。
- ・「進路だより」「学年団だより」を発行し、受験勉強への取り組みや心構え等について情報を提供することができた。特に「進路だより」は効果的だった。
- ・運動会や津島杯では、最上級生としての自覚をもち、早朝からクラス全員で練習に取り組み、お互いの人間関係を深めた。また、運動会でのパフォーマンスは、下級生への良い見本となった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・昨年度からの課題である、過眠症、不眠症などによって遅刻が増えた生徒が、他の生徒に与えた影響があるのか、クラスによっては遅刻者が多い学年であった。保護者への協力依頼もそのような生徒には、あまり効果がなかった。反省を促す効果的な指導を検討したい。
- ・塾頼りになってしまい、授業に集中できないまま身勝手な受験勉強を行っている生徒がいる。授業中心の学習は1年次より指導していることだが、3年次になってもまだ実行できていない生徒がいるのは残念である。また、十分な家庭学習が基本であることを認識させ、その指導を強化する必要がある。
- ・総体後の学習への切り替え、自主的に学習する者を応援する雰囲気作りがさらにうまくいくよう、学校全体で取り組む必要がある。今年度も、総体終了後すぐに学年集会を実施したことは効果的だった。
- ・センター試験後の特別時間割は再検討が必要であると思われる。その間の授業の負担が教科間や、教師間でバランスがとれていない状態である。3年クラス担任には、生徒との面接や指導も十分に出来ない場合も見られた。学習指導・進路指導の両方の観点からも検討が必要である。
- ・3年生になると志望大学もはっきりしているためか、高大連携や国際理解講演などへの参加は、ほとんどなかった。時期的な配慮も必要となってくる。